

## お父さん出番ですよ！

「お父さんは頼りない」中学生の女の子がそう言うのを聞いてアレッと思ったことがあります。勉強を教えてもらったり、悩みごとを相談するのはお母さんで、お父さんは頼りにならないから話をしないというのです。別の男の子は、父親のことを「あいつはだめや」と吐き捨てるように言います。「仕事は金のためにやっとなだけやし、趣味もないから休みの日は寝とる」。どちらのお父さんも家族のために一生懸命働いていらっしゃる方なのに、なんだかお気の毒です。

子どもたちが思春期の危機にさしかかるところ、親の世代もまた、夫婦関係の葛藤や仕事上の問題を抱えています。自分を振り返って、これでよかったのかと問い直す時期でもあります。親自身も、それぞれのライフサイクルの中で、危機的な時期にさしかかっているのです。

子どもに対する意見が夫婦で一致しないとしたら、そこには夫婦関係を見直すきっかけがあるはずで、危機は、成長へのチャンスでもあるといえます。夫婦や親子がより深い絆で結ばれるチャンスなのかもしれません。家族の中で、誰か一人が小さな変化を見せたとき、それが親子の関係や夫婦の関係にも影響し、家族全体の雰囲気が変わっていくことがあります。家でごろごろしている不登校の子どもを見るたびに、何ヶ月たっても何の変化もない、どうしたら変わってくれるのだろうと親や教師は思い悩んでしまいがちですが、変わるべきなのは案外子どもではなく、親や教師の方なのかもしれません。

「夫は仕事が忙しいし、子どもは相変わらずだし、私一人がからまわりしているみたい」と肩を落とすお母さんが、「夫と一緒に先生に会ってくれたんですよ」「久しぶりに夫と二人だけで外出したんですよ」などと少女のようにはにかんだ笑顔で報告してくれると、聞いているこちらまで嬉しくなります。家庭訪問の際に、なかなか父親に直接お会いすることはありませんが、「お父さん出番ですよ！」と心の中で声援を送っています。(佐野)

## [電話相談から]

### 鉄は少し冷めてから打て!?



電話相談の中には、最初からハイテンションで怒りをぶつけてくる人がいます。「アレが悪い、コレが悪い。そうでしょう!」と一方的な話に同意を求めてきます。誰の何が悪いのか、冷静に判断したくてもなかなか会話になりません。

怒りは「感染症」だと、ある医療関係の研修会で聞いたことがあります。用心しないとうつてしまいます。激しい口調で聞かされればなしでは、だんだん不快になり、ついにはその相手を拒否し批判めいた言葉を出してしまって、互いに傷つく結末もあります。

相手の怒りに感染せず、冷静にしっかりと目的を果たしている見本があります。交通違反を取り調べるあの警察官のやりとりです。「まことにお急ぎのところ恐れ入りますが…」と腰が低くていねいな声かけです。「なんで俺を捕まえるんだあ!」とカッカしている人に、満面の笑みで話しかけます。「アレッ見逃してくれるのかな?」と拍子抜けし秘かに期待していると、しっかり反則切符を切られてしまいます。憤怒のまま運転を再開しては大事故も招きかねないので、とにかく冷

静になってもらい、自分のしたことを反省してもらわねばならないからの対応でしょう。

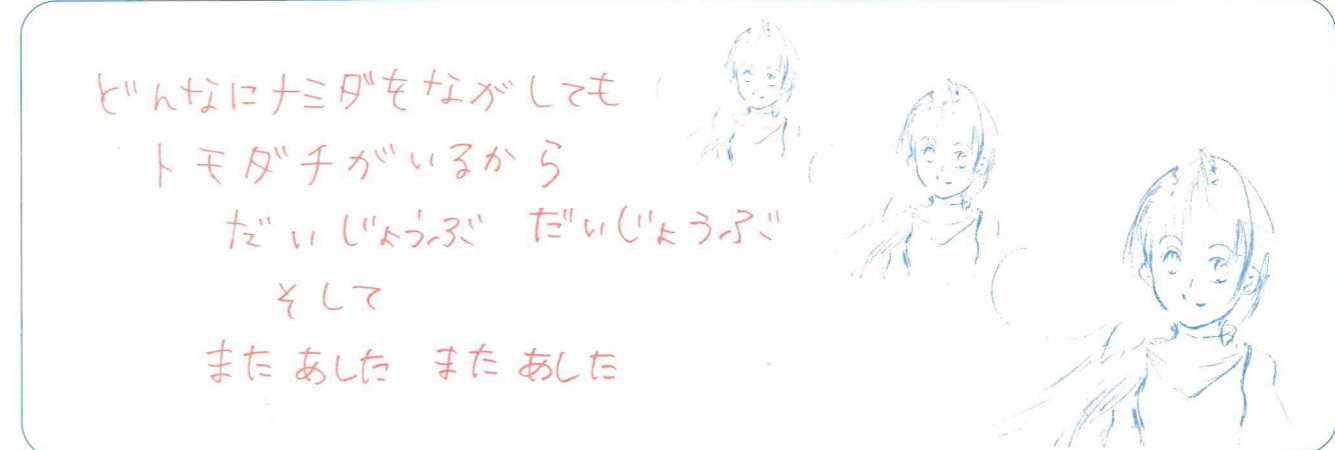
「鉄は熱いうちに打て」という諺があります。やる気のある時に機会を逃さないことや小さい子をしつける時に当てはまる諺でしょう。しかし、思春期の子どもや大人が、感情的になっている真っ最中にはかえって逆効果です。まずは冷静になってもらうことが第一です。怒り興奮している相手には「少し冷めてから打て!」がカギだということもその研修会の中でうかがいました。

相手に何が正しいかを伝えることは大事ですが、その前に正しいことが伝わる関係を作らねばなりません。関係ができさえすれば、人の話を聴く余裕も、自分を正しく観る反省心も、謙虚な行動をとる素直さも出やすくなります。勿論、冷め切ってからでは遅すぎますが…。(古市)



(発行者) 金沢市総合教育相談センター  
 所長 澤井 弘  
 〒920-0852 金沢市此花町2番7号  
 TEL(224)0874 FAX(263)7830  
 kyouiku.so@city.kanazawa.ishikawa.jp

# 金沢市総合教育相談センターだより



適応指導教室「そだち」通室生の作品 (詩: T.Yさん(12才), 画: M.Rさん(15才)) 平成15年3月10日発行

## 子どもたちの成長を支える



金沢市総合教育相談センター所長 澤井 弘

小学校時代に不登校になり相談を担当していたA君から「結婚します。結婚式にはぜひ出席してください。またその際に僕についてのスピーチをお願いします」と結婚式への招待を受けました。また今年の年賀状では、同じく不登校で相談を担当していたB君の母親から「息子は今県外の大学に通っています。見違えるくらいに成長した息子を見るとあの時は何だったのか…と疑いたくなります」という知らせをいただきました。

私はかつて教職を目指し、その願いが叶って中学校教師となり、学級担任として悩みながら生徒・保護者の皆さんや先輩・同僚の支援を受けながら教育活動に専念していました。そんなある日、教育委員会主催のカウンセラー講座と出会いました。当時はどちらかといえば、教師からの指導中心の生徒指導が主流でしたので「このような対応で生徒が育つのだろうか」「学校でこの考えが機能するのだろうか」とかなり懐疑的に受けとめました。しかしこの講座を3年間受けるうちに自分なりにこの講座の素晴らしさに共感し、考え方を教育実践に活用したいと思うようになりました。

その後金沢市教育センターで相談担当をする機会に恵まれ、そこで出会ったのがA君とB君でした。当時は相談開始から終結までは徹底して面接場面でのかかわりはもちますが、相談終結後には

一切関係はもたないものととらえていました。そしてその後、再び教師として学校に復帰し、学習指導、学級指導、学校経営に取り組みました。するといつの間にか生徒たちや保護者の皆さんから再び「先生」と呼ばれ始めました。そして同窓会に招かれたり卒業生が学校に来てくれるととてもうれしくまた懐かしくなって時を忘れず。ここではどうしても教え子たちとのその後のつながりにこよなく至福の感を覚えました。

このように様々な場で子どもたちとかかわってきたわけですが、常に心がけてきたのは、教師、相談担当とする役割は違っても、私自身の人間としての生き方(ありよう)を子どもたちとかかわりの中で伝えようとしてきたことです。そして同時に一方で、できるだけたくさんの立場から子どもをとらえようとしてきたことです。「親だったら」「担任教師だったら」「医師だったら」……。自分一人の立場からの限られた考え方にとらわれないよう心がけてきました。

子どもの成長を支えるには「これだけがベスト」という取り組みはないように感じます。「信念をもって、尚且つ柔軟に子どもと向き合うこと」、これこそ子どもたちの成長を支える大人のかかわりのかんどころといえるのではないかと感じています。

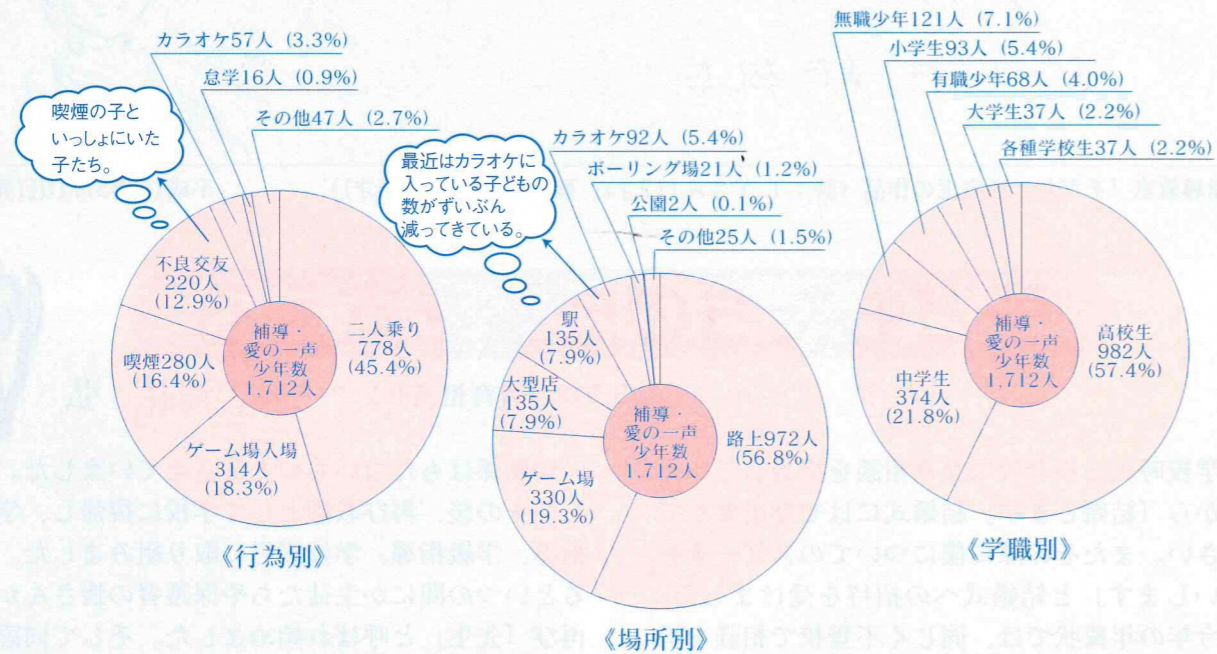
# 平成14年9月～平成15年1月の補導・「愛の一声」状況

## (1) 街頭補導状況

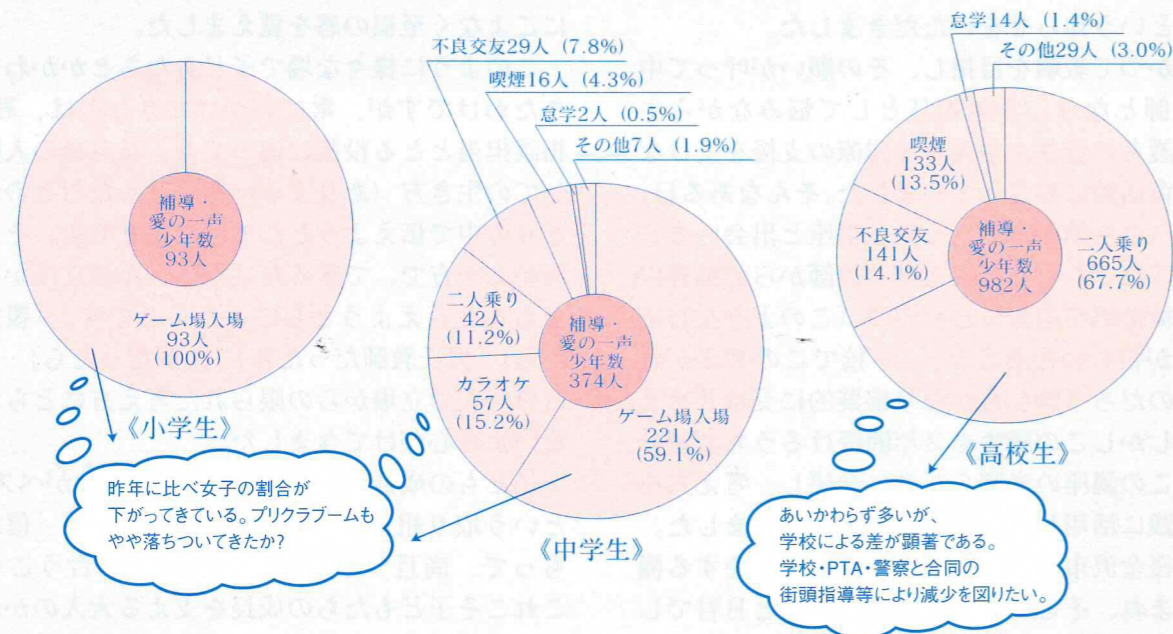
表中の( )は女子内数

	回数	補導員の従事数	補導少年数	「愛の一声」少年数	補導・愛の一声合計
午前	149回	305人	11 (3) 人	112 (36) 人	123 (39) 人
午後	253回	684人	151 (36) 人	1,140 (529) 人	1,291 (565) 人
薄暮	71回	258人	27 (3) 人	253 (97) 人	280 (100) 人
夜間	19回	65人	0 人	18 (8) 人	18 (8) 人
合計	492回	1,312人	189 (42) 人	1,523 (670) 人	1,712 (712) 人

## (2) 補導・「愛の一声」少年の行為別・場所別・学職別の概況



## (3) 小・中・高校生の行為別状況



# 街頭補導活動から



## ■きっかけ

朝から雪が降り続けている寒い日、午後の街頭補導に出発しました。タバコの自動販売機の前で二人の高校生がタバコを購入しているところに遭遇しました。制服の上にジャンパーをはおり、首には大判のスカーフを巻いているおしゃれな高校生です。自分でタバコを買う勇気がないのでしょうか？友達にお金を渡し買ってもらっている様子です。タバコの行方を確認してから子どもたちに声をかけました。

「こんにちは、補導員だけどタバコまだ早いよ」と呼びかけますと、子どもたちは様々な言葉で応じてきました。「本当に補導員ですか。身分を証明できますか。名前を教えてください」今までにない言葉が返ってきました。自分の立場を説明し、補導員証を表示しましたが信じようとはしません。喫煙の有害性や規則を守ることの必要性を話し、絶対にタバコを吸わないように諭しましたが、次に出た言葉は「あんたは偽善者や」でした。

初対面の大人から耳の痛い話をされ、子どもたちもかなり動揺している様子です。無事に『イエローカード』を渡し、子どもたちに「雪が降っているから、気をつけて帰るのよ」と声をかけ、その場を立ち去ろうとしたとき、「バカヤロー」と言う言葉が返ってきました。自分の非を認めず、まるで他人のせいでの状況に陥ってしまったかのような言動に驚かされました。

子どもの態度から、補導されたことを素直に親に話してくれるか心配でしたが、次の日、早々に保護者の方から連絡がありました。「補導員の方には、実に良いきっかけをもらったと感謝しています。子どものことは母親に任せっきりだったものですから補導されたことにより、子どもといろいろ話し合うことができました。本当に有難うございました」と。

彼らにとっては大人になる前の一時的なこともかもしれませんが、自分の行為を反省すること、またいやなことでもこれからは大人になるまでずっと逃げ続ける訳にはいかないことを分かって欲しいと思います。

私たちの「声かけ」が良い方向へ向かうきっかけになってくれればと思います。(補導員D)

## ■嘘は・・・のはじまり

補導を始めて1年になろうとしています。子どもたちに嘘をつかせないよう対応に苦勞する毎日です。「ねえ、確認の為にもう一度言って!」「おばちゃん、ウソついたらと思っとるやろ。信じてくれんがならもう書かん」「ごめん、ごめん、信じるよ」。こんな会話をかわしながら「補導票」に記入させますが、中には平気で嘘を書く子がいます。

『喫煙』などで声をかけると、驚きで手も震え怯えた様子で「補導票」に記入しているのですが、住所も名前も電話番号も全くのデタラメという事があります。また、躊躇する様子も無くスラスラと正直に書いているようにみえても、親や学校に知られたくないので必死に隠そうとする場合もあります。

私たちは、自分のした事を認め、保護者に正直に話ができるよう、子どもたちとのやりとりの中で、嘘をつかなくて済むような心からの反省を引き出したいと考えています。

子どもの心の中から嘘が無くなると、非行が未然に防げると信じて・・・(補導員E)

## ■予期せぬ訪問

先日、あるお父さんがセンターのドアをそうつと開けて入って来られました。「あのう」と、次の言葉がなかなか出てこない様子。お話をお伺いすると、娘さんが補導員に補導された際、「学校が厳しいので咄嗟に他人の名前をかたり、うその住所・電話番号をカードに書いた。そして、母親には心配かけまいと父親の自分にだけ打ち明けてくれたので、今日はそのお詫びにやってきました」とのことでした。

補導時、咄嗟にうそをつき、その場しのぎをしたものの大いに反省して、父親にきちんと本当のことを伝え、相談したことは非常に素晴らしいことだと思います。補導される事は決して良い事ではありませんが、このようなことをきっかけに親子の会話が深まることを願っています。(補導員F)

今年度も総合教育相談センターに小中学校の先生方から「学校からの声」をお寄せいただいています。その中で中学校のおひとりの先生が「他の先生方にも今の思いを伝えたい」とお便りをくださいました。許可をいただきましたので掲載します。

## ～助けられ上手になりませんか～



これまでにいろいろな子どもたちと出会ってきましたが、私一人では対応に困ってしまうこともありませんでした。そんな時、専門の相談機関やスクールカウンセラーに助けられたことが何度かあります。ここでは、AさんとBさんの二つのケースを紹介します。

中学校2年生のAさんは急に泣き出して早退を申し出るなど精神的に不安定な状態でした。Aさん自身は病院への受診を希望していましたが、保護者には抵抗がありました。そこで相談機関をいくつか紹介し、抵抗の少ないところを選んでいただきました。そして、そこでの面接相談の中で、しばらく学校を休むことや病院についての話をしただけと保護者の不安も少し和らいだようでした。Aさんは学校を休んで通院し、担任は週1回面談をしたり、メールの交換をして援助しました。相談機関には保護者のサポートをしていただきました。担任と相談機関も電話で連絡しあい、情報交換を続けました。Aさんは安定を取り戻し、一月半程で再登校するようになりました。

中学校3年生のBさんは適応指導教室に通っていましたが、小学校時代から何年も不登校が続いていました。高校進学を希望していましたが、しかし、担任である私にはBさんの問題点ばかりが目につき、どうしたらよいか先が見えない状態でした。そこで、スクールカウンセラーの方や適応指導教室のある教育相談センターの指導主事さんに相談をして、考えを整理したり、指針を得たり、また情緒的なサポートを得たりして、落ち着いた気持ちでBさんに接することができるようになりました。半年後、Bさんは学校へ足を向けるようになり、高校進学も果たすことができました。

心や体、そして行動に何らかの不調を示す子どもたちは、暗闇の中で動けなかったり、先が見えないままにむやみに動き回っている状態なのかもしれません。人は助け合っています。助けが多いほど心強いものです。しっかりと手を握ってくれる人、ちょっと背中を押してくれる人など、役割を分担することもできます。問題のない人はいま

せん。立ちすくんでいる子どもたちも、とまどっている私たちも、専門の相談機関やスクールカウンセラーに相談することでより適切な援助を受けられる可能性が広がります。気軽に連携し、助けられ上手になりませんか？

(金沢市内中学校N教諭)

貴重なお便りをどうもありがとうございました。来年度も総合教育相談センターでは、本年度と同様に学校への支援を重視して相談にあたりたいと考えています。ご意見、ご要望をお寄せください。

(宮崎)

学校の先生方、どうぞご利用下さい。

## 精神科医相談

先生方が学校での子どもたちを指導している中で、「この子の行動をどう考えてよいか分からない」「こんな対応でよいか不安だ」と思われるケースはありませんか？

相談センターでは毎月1回程度、精神科の医師による助言を受けられる相談の場を設けています。上記のような指導上の不安をお持ちの先生方、どうぞ気楽にご利用下さい。

ご利用に際しましては、まずは相談センターまでお電話下さい。(TEL 224-0874)

### <最近の相談事例>

- ・友達との関係づくりがうまくいかず、すぐ暴れてしまう。
- ・不登校で、家庭の中で不安定な様子が見られるようになった。



## 【相談の窓Ⅲ】

### 「うん、おはよう」

適応指導教室「そだち」では、いろいろな子どもとの出会いがあります。Aさんはなぜかあいさつだけはしません。「おはよう」と声をかけても反応が返ってきません。でも、しばらくして彼女から「あのね、・・・」と話しかけてくるのです。「あいさつだけどうしてしないの？あんまりいい気持ちしないよ・・・」と言ってみたり、くり返しあいさつしてみたりするのですが、頑なに、あいさつだけはしないのです。

Aさんは、「そだち」の行事に積極的です。多くの仲間に参加してもらうためにいろいろ工夫し、回を重ねるにつれてがんばっています。「他にも新しい活動をしたい」と、何人かの仲間やスタッフに相談をしたり、大変意欲的です。その後半年ほど、いろいろな活動を通じて、まわりとのかかわりも多くなってきたAさんなのですが、それでもあいさつだけはしませんでした。

そこで、スタッフが話し合い、今までより多くあいさつできるように働きかけようということになりました。私は彼女にもう一度言ってみました。「あいさつだけできない理由があったら言ってほしい。一緒にいろんなことをしているのだから、あいさつが返ってきたほうが嬉しいよ」と。彼女はじっと聞いていましたが、答えは返ってきませんでした。

次の日、Aさんが私のそばに近づいてきたので「おはよう」と言ってみました。その時、返ってきたのが「うん、おはよう」でした。思わず、満面の笑みで答えてしまった私でした。それからは、彼女からあいさつが返ってくるが増えてきました。彼女は必ず「おはよう」の前に「うん」を付けます。「うん」は、あいさつを言うための踏み切り板のようなものでしょうか。

あいさつが交わせるようになり、彼女との距離が少し近づいたような気がしています。(小畑)



## 【相談の基礎Ⅲ】

### ブリーフセラピー ～“何がいけなかったのか”ではなく“どうなりたいのか”～

保護者や先生方との面談の中で、「原因は何でしょう？」「原因が解決すると登校できるでしょうか？」と聞かれることがあります。ところが多くの場合は原因を特定することができなかつたり、いろいろな要因が重なっているものです。そのような場合は原因を取り除くことが難しかったり、一つの原因を解決できたとしても状況が改善されることはあまり期待できません。

ブリーフセラピー(効率的に問題解決をめざすアプローチの総称)の一モデルである「解決志向アプローチ」は、「原因を探らなくても解決を導くことは可能である」という発想をします。このアプローチでは、原因があって結果が起こるという因果関係を基にして問題を解決しようとするのではなく、相談者本人がどうなりたいのかということに焦点を当て、そのために何ができるかを具体的に考えていきます。そのときに、「たまたま問題が起こらなかった状況」「たまたまうまくいった状況」に焦点を当てることで具体的な行動を考えていきます。そして、①うまくいっているなら治そうとするな ②うまくいっているならもっとそれをせよ ③うまくいかないなら、他のことをせよ という三つの原則で、とにかく問題を抱えている人が何とかうまくいくように援助します。

このアプローチの基本的な前提は、「相談者が解決の専門家である」「変化は絶えず起こっており必然である」「相談者は自分の問題を解決するためのリソース(資源、資質、能力)を持っている」という考えです。相談者は問題を抱えてはいるものの必ずリソースを持っており、小さな変化を続けているのです。

このように解決志向アプローチは、原因だけに目をやることなく本人がどうなりたいかに焦点を当てることや、問いかけを多用すること、教師が子どもの可能性に目を向け子どもに意欲を持たせることができるなどの点を考えると、学校教育の中で使いやすいものではないかと思われます。(鈴木)

